

2021年9月15日

## 博報堂「会社と私の本音調査」 第1回 働き方の本音

### 経営層と一般社員、働き方・仕事意識にギャップあり。 一方で、もっとお互いのコミュニケーションを求めている。

- ・「自分の会社が好きだ」経営層 84.7% > 一般社員 48.9%
- ・「自分はこのまま定年まで乗り切れる」経営層 64.7% > 一般社員 38.7%
- ・「今の仕事は将来 AI に取って代わられる」経営層 25.0% < 一般社員 48.7%
- ・一般社員の7割が「副業したい」
- ・経営層の9割・一般社員の8割「もっとお互いのコミュニケーション取りたい」

株式会社博報堂（東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）の、グループ横断で企業・事業変革を支援するコンサルティングチーム「HAKUHODO X CONSULTING（博報堂クロスコンサルティング）」は、ニューノーマル時代の働き方と組織のあり方を探る意識調査『会社と私の本音調査』を実施しました。

調査は会社で働く3つの階層（経営層・管理職層・一般社員）を対象に行い、働き方や仕事に関する各層の本音を比較したところ、特に経営層と一般社員の大きな意識・価値観のギャップが浮き彫りになりました。（調査実施：2021年2月 対象：全国1,250名の企業勤務者 手法：インターネット調査）

#### 【調査結果のポイント】

#### ■「会社愛あふれる経営層」に対し、「副業に前向きな一般社員」。求心力を高め“内”に向かう経営層と、“外”に向かう一般社員の意識ギャップが鮮明に。

- ・「自分の会社が好きだ」は経営層8割・一般層5割、「自分の会社に誇りを持っている」は経営層8割・一般層4割。経営層は会社や仕事への愛着が強いが、一般社員はその半分程度にとどまる。
- ・一般社員の8割が「会社が副業を認めることに賛成」、同7割が「自分で副業をしたい」と回答。やりたい仕事があればすぐ転職するとの回答も6割にのぼった。

#### ■「このまま定年まで乗り切りたい経営層」に対し、「今の仕事はなくなるかもと感じている一般社員」。働き方や仕事の未来予測に温度差。

- ・「働き方を変えなくても自分は定年（引退）まで乗り切れる」と回答した人は経営層64.7%・一般社員38.7%。経営層の多くがこのまま乗り切れると自信。
- ・一方、「今の仕事は将来 AI 等 に取って代わられる」は経営層25%・一般社員48.7%、「今の職種は今後必要とされなくなる」は経営層28.7%・一般社員47.1%。一般社員の半数が、今の仕事がなくなっていくと冷静に感じている。

#### ■経営層も一般社員も、もっとお互いのよりよいコミュニケーションを求めている。

- ・現在の階層間のコミュニケーションは、やや経営層からの一方通行状態。特に経営層と一般社員のコミュニケーションでは、経営層の5割が「できている」と感じているのに対し、一般社員は3割と差が大きい。
- ・しかし経営層の9割、一般社員の8割が、よりよい相互コミュニケーションを求めている。

### 【調査実施主体のご紹介】

## HAKUHODO X CONSULTING（博報堂クロスコンサルティング）

### 組織開発プロジェクト

HAKUHODO X CONSULTING は、博報堂が推進する「ブランド・トランスフォーメーション®」の考え方に基づく企業・事業変革コンサルティング（BX コンサルティング）の先鋭集団です。グループを横断した約 300 名のコンサルタントの専門性と機能をクロスさせ、共創による事業変革を支援しています。

BX コンサルティングモデルにおいて、組織変革は、企業・事業変革を実現するための重要な構成要素の一つです。今回の調査を通じて得られた知見は、組織変革のコンサルティングに活用してまいります。

調査結果の詳細や、組織変革コンサルティングサービスについては、HAKUHODO X CONSULTING 事務局（h.x.c@hakuodo.co.jp）にお問い合わせ下さい。

※報道関係の方は、博報堂広報室（koho.mail@hakuodo.co.jp）にお問い合わせ下さい。

### 【調査概要】

調査手法：インターネット調査

調査時期：2021年2月

調査対象者：全国の100人以上の企業に勤務している人

（※個人事業主、家業手伝い、パート／アルバイト、学生、専業主婦、無職をのぞく）

サンプル数：1250 サンプル

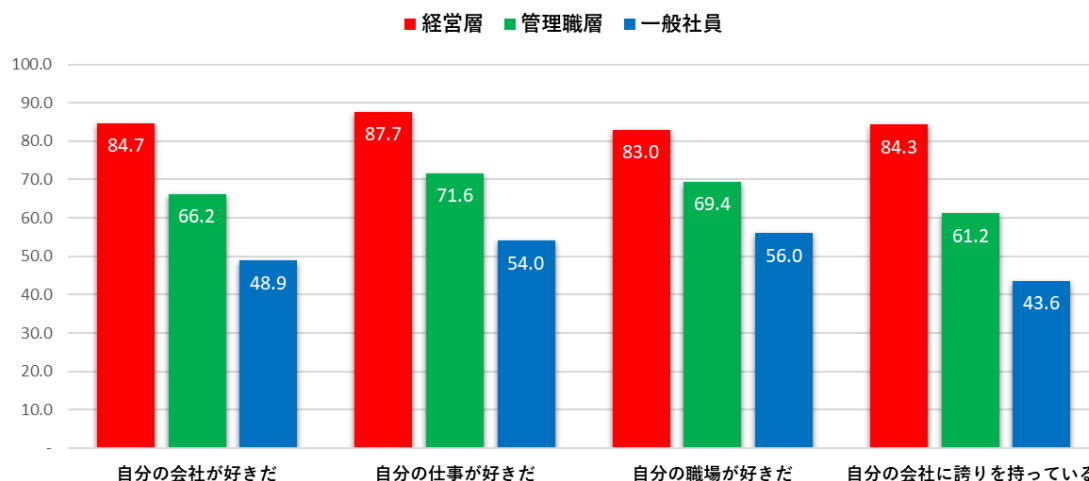
（経営層 300 名、管理職 500 名、一般職 450 名）

### <調査結果の詳細>

#### 現在の会社・仕事に対する本音

#### 経営層は、自社や仕事に対する強い愛着や誇りを持つが、一般社員はその半分程度にとどまる。

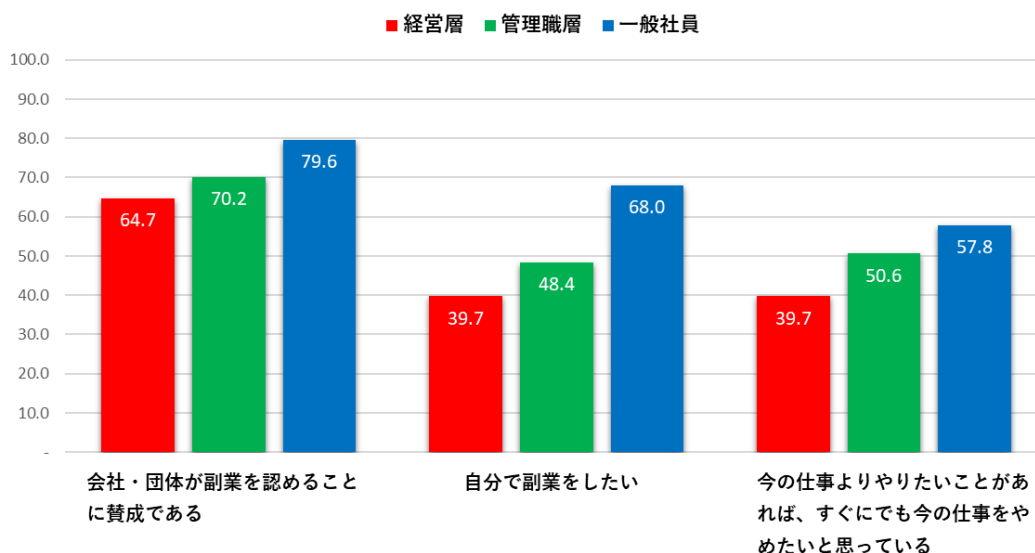
・「自分の会社が好きだ」「自分の仕事が好きだ」「自分の職場が好きだ」「自分の会社に誇りを持っている」のいずれの質問においても、経営層>管理職層>一般社員 という結果になりました。経営層の8割以上が自社や仕事への愛着や誇りを持っている一方で、一般社員はその半分程度にとどまっています。特に「誇りを持っている」の項目では40ポイント以上の大きな意識差がみられました。



## 副業や転職に関する本音

**一般社員の 8 割が副業に賛成、7 割が自分も副業したいと回答。やりたいことがあれば転職する意識も高い。**

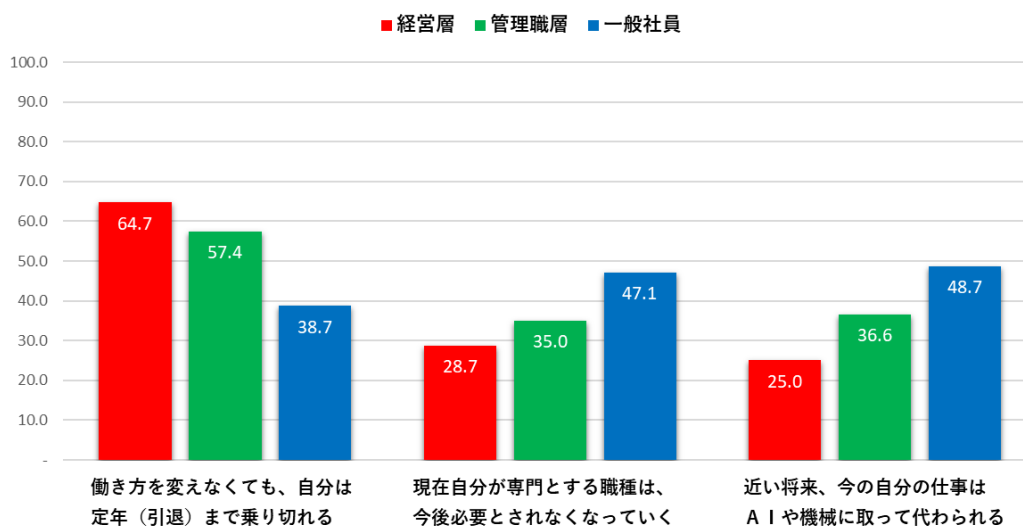
- ・一般社員の 79.6%が「会社が副業を認めることに賛成」、68.0%が「自分で副業をしたい」と回答、一般社員層に副業に対する前向きな意識が浸透していることが分かりました。
- ・「会社が副業を認めることに賛成」は全ての層で6割を超え、会社全体としても外に開きつつある状況が伺えます。
- ・また、一般社員の 57.8%が「今の仕事よりやりたいことがあれば、すぐにでも今の仕事をやめたい」と答えています。



## 仕事・働き方の未来についての本音

**このまま働き方を変えずに乗り切れると考える経営層と、今の仕事はなくなっていくと冷静に見つめている一般社員の意識の違いが浮き彫りに。**

- ・「働き方を変えなくても自分は定年（引退）まで乗り切れる」と回答した人は経営層 64.7%、一般社員 38.7%と、26ポイントの差が開きました。
- ・一方、「今の職種は今後必要とされなくなる」は経営層 28.7%・一般社員 47.1%、「今の仕事は将来 AI 等にとって代わられる」は経営層 25.0%・一般社員 48.7%と、いずれも一般社員層が最も高くなっています。一般社員の半数が「今の仕事はなくなっていく」と感じている状況です。



## 階層間コミュニケーションに対する本音

各層間のコミュニケーションは、やや経営層の一方通行状況になっている。

しかし、どの2層間でも、8割前後以上がよりよい相互コミュニケーションを求めている。

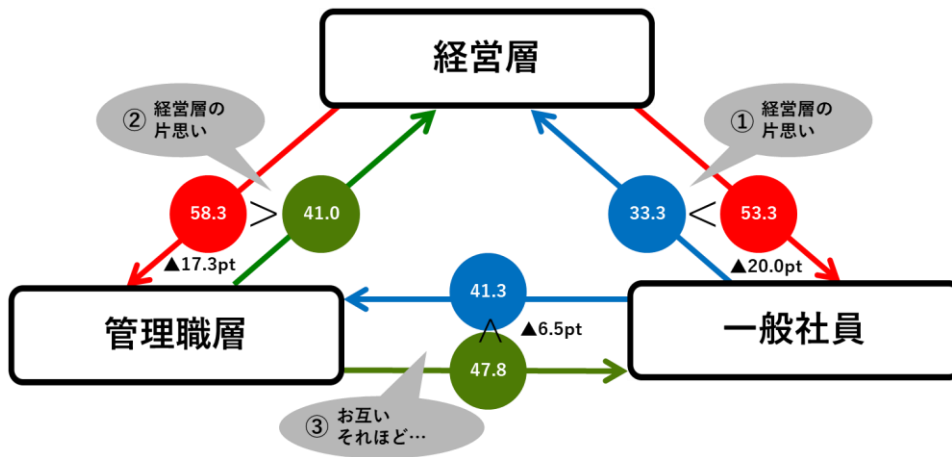
### (1) 現状

【① 経営層と一般社員層】経営層の 53.3%が一般社員とコミュニケーションを取れていると感じていますが、一般社員側でそう感じている割合は 33.3%にとどまりました。(差分 20pt)

【② 経営層と管理職層】経営層の 58.3%が管理職層とコミュニケーションが取れていると感じていますが、管理職層は 41.0%にとどまりました。(差分 17.3pt)

【③ 一般職層と管理職層】管理職層の 47.8%が一般社員とコミュニケーションが取れている、一般社員の 41.3%が管理職とコミュニケーションが取れていると回答。差は小さい (6.5pt) もの、いずれも過半数を下回りました。

(1) 各2層間の「お互いのコミュニケーションがうまくいっている」と感じる比率 (%)



### (2) 今後 (理想)

【① 経営層と一般社員層】経営層の 89.3%、一般社員の 76.7%が相互の良好なコミュニケーションを望み、特に経営層からの問題意識が強い様子が見られます。

【② 経営層と管理職層】経営層の 88.3%、管理職層の 85.8%と、この二層間では 85%以上が相互の良好なコミュニケーションを望んでいます。

【③ 一般職層と管理職層】管理職層の 87.4%、一般社員の 81.8%がお互いの良好なコミュニケーションを望んでおり、この二層間でも高いコミュニケーション欲求が伺えました。

(2) 各2層間の「お互いのコミュニケーションが今後 (も) うまく行って欲しい」とする比率 (%)

